

# 豊田景気実感調査

Viewing over Our Toyota's Economic Condition

第1号

発行日：2011.11.28

## 2011年10月初回調査結果

### ～ 内閣府公表「景気ウォッチャー調査」の豊田版 ～

豊田信用金庫と豊田商工会議所が協同して、豊田に居住もしくは勤務されている方を対象として、「身の回りの景気をどう感じているか」を3つの視点から調査させていただきました。 <アンケートにご協力いただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。>

#### 3つの視点について

- ① (現状判断) ⇒ 2～3ヶ月前から現在までの景気の変化をどう感じますか？
- ② (先行き判断) ⇒ 2～3ヶ月後までの景気の推移をどう予想していますか？
- ③ (水準判断) ⇒ 今、現在の景気実感はどうですか？

#### 調査結果の概要について

##### (1) 回答いただいた内容に対する評価方法

評価内容を5段階に分け、回答頂いた構成比(%)を算出し、その構成比に付与点数を乗じて算出します。この方法により算出された数値がDIとなります。(内閣府調査と同様です)

評価段階		5	4	3	2	1
評価	現状	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	先行き	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	水準	(良い)	(やや良い)	(どちらでも)	(やや悪い)	(悪い)
付与点数		1	0.75	0.5	0.25	0

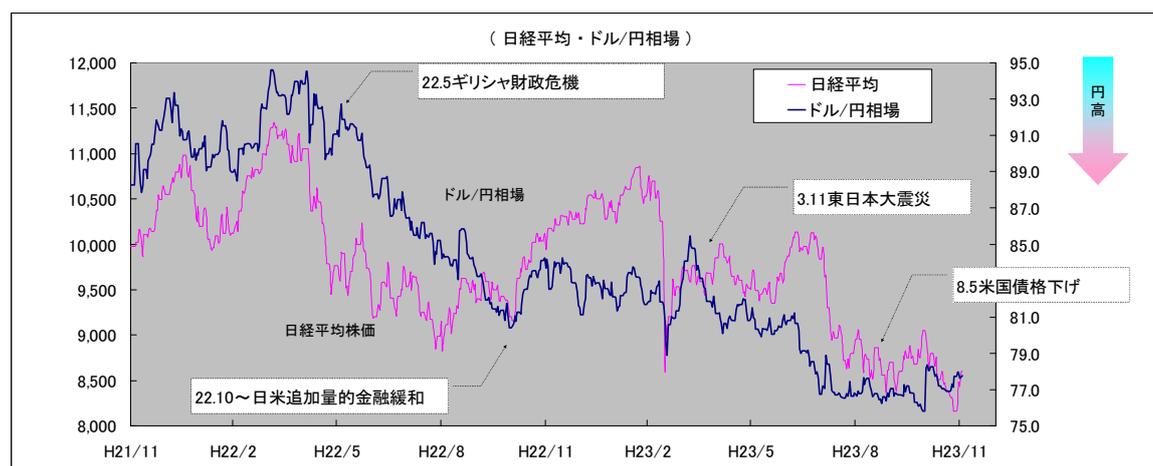
※例えば、回答頂いたすべての方が景気実感は変わらないと回答した場合は、 $100\% \times 0.5 = 50$  (DI) となり、景気横這いを示します。また、良い/悪いの分岐点と考えることもできます。

##### (2) 豊田地域と10月内閣府調査(全国・東海地区)との比較

	現状判断DI				先行き判断DI				水準判断DI			
	家計	企業	雇用	総合	家計	企業	雇用	総合	家計	企業	雇用	総合
豊田	42.6	52.0	64.3	47.5	39.3	40.2	50.0	40.4	30.0	34.4	39.3	32.2
全国	44.5	46.1	54.8	45.9	46.1	43.0	51.0	45.9	39.7	41.7	50.9	41.3
東海	43.6	—	—	45.9	45.5	—	—	45.3	39.1	—	—	41.7

(全国・東海は内閣府10月調査結果)

#### 特別調査 ～円高の影響について～ 巻末に掲載

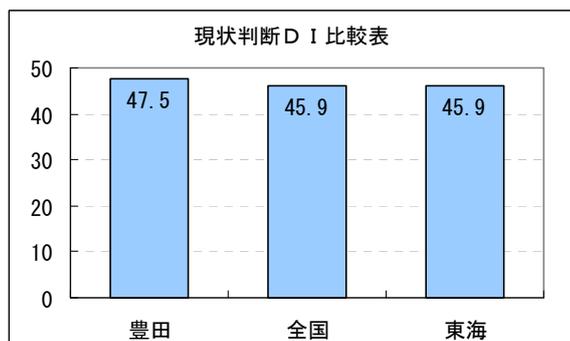


① 現状判断DIは「47.5」 ～ 全国・東海地区を若干上回る景気実感 ～

(1) 回答別構成比

構成比		良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	DI
本調査	豊田	6.0	19.7	43.2	20.7	10.4	47.5
内閣府	全国	1.4	19.3	48.0	23.9	7.3	45.9
	東海	1.3	20.2	45.9	25.8	6.8	45.9

(2) DI比較表



現状判断DIは横這いの50を下回る結果となりました。しかしながら、全国・東海地区と比較すると、これらを上回っています。要因としては、震災からの復旧に伴う受注量の増加等から、企業動向DIと雇用関連DIが全国を上回った為です。因みに横這いの50をいずれも上回る結果となりました。家計動向関連DIは、購買意欲の低下を指摘する声が多く、全国・東海地区をいずれも下回る結果となりました。

(3) 景気モニター業種別比較 (※50ポイント以上に網掛け表示)

業種	豊田市 (A)	全国 (B)	(A) - (B)	東海 (C)	(A) - (C)
家計動向関連	42.6	44.5	▲ 1.9	43.6	▲ 1.0
小売関連	39.5	43.9	▲ 4.4	—	—
飲食関連	45.8	43.8	+ 2.0	—	—
サービス関連	43.3	46.4	▲ 3.1	—	—
住宅関連	56.3	42.6	+ 13.7	—	—
企業動向関連	52.0	46.1	+ 5.9	—	—
製造業	53.7	46.3	+ 7.4	—	—
非製造業	48.9	46.2	+ 2.7	—	—
雇用関連	64.3	54.8	+ 9.5	—	—
合計	47.5	45.9	+ 1.6	45.9	+ 1.6

景気モニターのコメント紹介

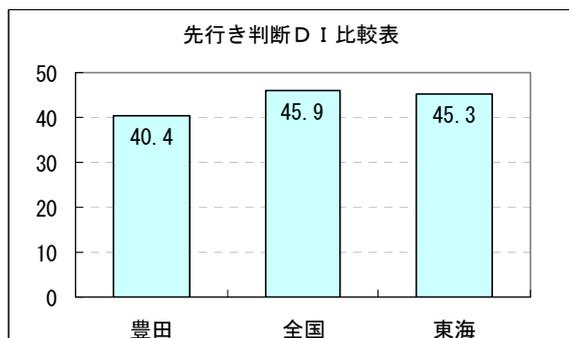
- ★ 震災からの復旧需要により、受注が増加傾向にある為、良くなっていると判断 (金属製品製造業経営者)
- ★ お客様との会話の中で、経済、政治に関して良い意見がない為、変わらないと判断 (美容室経営者)
- ★ 消費意欲の停滞が見てとれる為、悪くなっていると判断 (旅行代理店経営者)

② 先行判断DIは「40.4」 ～ 総じて悲観色の強い結果 ～

(1) 回答別構成比

構成比		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	DI
本調査	豊田	3.3	9.8	43.7	31.7	11.5	40.4
内閣府	全国	2.0	17.6	49.5	24.0	7.0	45.9
	東海	1.7	16.7	48.5	27.0	6.0	45.3

(2) DI比較表



先行判断DIは横這いの50を大幅に下回りました。現状判断DIと比較すると、全国は横這い、東海地区は若干減少していますが、豊田はそれらを上回る大きな低下となりました。業種別においても、全業種で低調であり、特に家計動向関連DIは全国が上昇しているのとは対照的に低下となり、豊田全体で景気の先行きに対する懸念が強まっている様子が窺われました。

(3) 景気モニター業種別比較 (※50ポイント以上に網掛け表示)

業種	豊田市 (A)	全国 (B)	(A) - (B)	東海 (C)	(A) - (C)
家計動向関連	39.3	46.1	▲ 6.8	45.5	▲ 6.2
小売関連	35.9	45.0	▲ 9.1	-	-
飲食関連	45.8	47.1	▲ 1.3	-	-
サービス関連	41.7	49.2	▲ 7.5	-	-
住宅関連	43.8	41.7	+ 2.1	-	-
企業動向関連	40.2	43.0	▲ 2.8	-	-
製造業	42.7	42.3	+ 0.4	-	-
非製造業	35.9	43.8	▲ 7.9	-	-
雇用関連	50.0	51.0	▲ 1.0	-	-
合計	40.4	45.9	▲ 5.5	45.3	▲ 4.9

景気モニターのコメント紹介

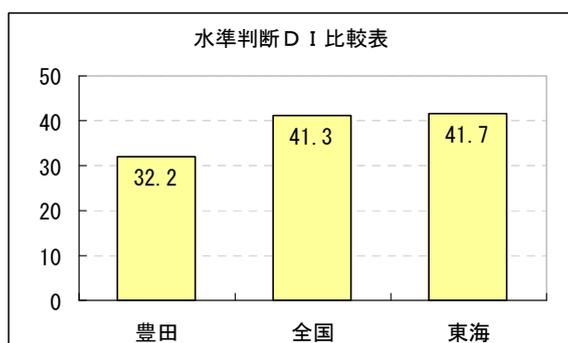
- ★ 来年3月までの自動車生産量の増加見込みから良くなっていると判断 (化学工業企業経営者)
- ★ 震災からの完全回復、タイの洪水の影響から脱するのは、まだ困難であり変わらないと判断 (旅館経営者)
- ★ 今の世界情勢 (EU問題等)、円高等から景気の更なる悪化が予想でき、悪くなっていると判断 (製造業経営者)

③ 水準判断DIは「32.2」 ~ 現状における経済状況の厳しさが際立つ結果 ~

(1) 回答別構成比

構成比		良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	悪い	DI
本調査	豊田	2.2	10.4	25.1	38.8	23.5	32.2
	全国	1.4	16.3	41.1	28.9	12.4	41.3
内閣府	東海	1.7	18.5	37.8	29.2	12.9	41.7

(2) DI比較表



水準判断DIは横這いの50を大幅に下回りました。

これは、全国・東海地区と比較しても際立つ結果であり豊田の置かれた経済活動の低調さを訴えているものと捉える事ができます。業種別に見ても、押し並べて全国を下回る水準であり、特に飲食関連サービス関連ではDIが20台と極めて低い水準に留まる結果となりました。

(3) 景気モニター業種別比較 (※50ポイント以上に網掛け表示)

業種	豊田市 (A)	全国 (B)	(A) - (B)	東海 (C)	(A) - (C)
家計動向関連	30.0	39.7	▲ 9.7	39.1	▲ 9.1
小売関連	31.4	39.1	▲ 7.7	-	-
飲食関連	22.9	37.1	▲ 14.2	-	-
サービス関連	29.2	42.2	▲ 13.0	-	-
住宅関連	34.4	37.3	▲ 2.9	-	-
企業動向関連	34.4	41.7	▲ 7.3	-	-
製造業	35.4	44.8	▲ 9.4	-	-
非製造業	32.6	39.5	▲ 6.9	-	-
雇用関連	39.3	50.9	▲ 11.6	-	-
合計	32.2	41.3	▲ 9.1	41.7	▲ 9.5

豊田景気実感調査まとめ

景気の現状、先行き、水準判断から総括しますと、豊田の人々は景気の動きに非常に敏感に反応している事がわかりました。即ち、景気の現状について、足許では全国や東海地区よりも震災からの復旧を実感しながらも、本格的な回復にはほど遠く、昨今の経済情勢等から、景気の先行きや水準について厳しい見方をむしろ増している状況にあり、また、生産回復の家計への波及も全国や東海地区に比べても弱いと判断している事が伺えます。

これは、自動車関連企業の動向に左右される当地域の特色を色濃く反映したものであり、タイの洪水や円高、欧米経済の減速等の複合要因の重なりから、先行き見通しの不透明さが強まっている事に加え、これに伴う景気回復の後ずれへの失望マインドにより慎重さが増しているとみられます。

次回3月調査では以上の事を踏まえつつ、より詳細に豊田の人々の景気実感を分析してまいります。

## 景気モニターの貴重なご意見を「自由回答」という形で頂戴しましたので紹介します。

回答種別 ①国（政府）への要望 ②市・豊田商工会議所に対して ③豊田信用金庫に対して ④景気の見方 ⑤その他

①	<p>○中小企業の海外進出の流れを阻止して欲しい。また、中小企業に対して補助制度を拡充してほしい。（家計動向：衣料品店経営者）</p> <p>○年金の受給開始年齢の引き上げ問題が老後の生活に対する心配をもたらしており、貯蓄重視傾向が顕著。消費にお金がまわらぬような対策を考えてほしい。（家計動向：商店街代表者）</p> <p>○復興需要をうまく内需拡大につなげるとともに、新エネルギーや新技術の開発で技術大国日本を再構築し、ものづくり集積地東海のレベルアップを図ってほしい。海外移転の阻止が必要。（企業動向：化学工業経営者）</p> <p>○現在議論されているTPPのメリット、デメリットを具体的に教えてほしい。どんな影響が想定されるのか。（家計動向：司法書士）</p> <p>○規制が多すぎると思う。規制による締め付けが厳しく規制緩和を進めて頂きたい。（雇用関連：求人情報誌製作会社社員）</p>
②	<p>○豊田市の施設は他県と比較してもすばらしいと思うが、観光客等を惹きつける魅力がない。その点を考えていく必要があるのではないか。（家計動向：レストラン経営者）</p> <p>○豊田市は工業以外の産業が目立っておらず、商業、農業、飲食業の活性化に力を入れるべきである。（家計動向：スナック経営者）</p>
③	<p>○新たな事業チャンスに対する積極的な支援を行ってほしい。（企業動向：電気機械器具製造業経営者）</p> <p>○現実に役立つ円高対策等に関するセミナーを開催してほしい。（企業動向：輸送用機械器具製造業経営者）</p>
④	<p>○米国、EUの景気動向からの円高、異常気象、増税等、今後の経済見通しに明るい点が見えてこない。（企業動向：金属製品製造業経営者）</p> <p>○昨今の経済情勢から長期的戦略を立てづら。短期的に物事を考え、こつこつ積み上げていくしかない。（雇用関連：人材派遣会社社員）</p>
⑤	<p>○若いお客様が市外の大型店（みよし、岡崎等）に出ていく為、地元商店には年配客しか訪れてくれず、大型商業施設を誘致してほしい。（家計動向：美容室経営者）</p> <p>○産業の空洞化や高度技術者（熟練工）の不足による産業力の低下が気になる。（企業動向：一般機械製造業経営者）</p> <p>○若者の購買意欲が低い。特に「こだわり」といったものがないように感じている。（雇用関連：学校就業担当者）</p>

## 特別調査「円高の影響について」 ～ 良い影響を感じる人は100人中僅か4.4人 ～

「良い影響」を感じる方は全体の僅か4.4%に留まり、自動車を中心に輸出産業の多い豊田の特色を色濃く反映した結果となりました。なお、円高による好影響としては、輸入品価格の低下や海外投資の好機等があげられています。

(1) 「悪影響」と「影響なし」がそれぞれ半数を占める結果となり、「好影響」はごく僅かに留まりました。

評価	良い影響を感じる	感じない	悪い影響を感じる
構成比	4.4%	48.3%	47.3%

「家計動向関連」：円高による企業業績の悪化に伴う従業員の方の給与の低迷、減少による消費マインドの低下等から、サービス関連において円高が悪影響と感じている割合が高まっている事がわかりました。

「企業動向関連」：円高による輸出産業の生産減少や輸入品との競争激化等から、製造業を中心に悪影響を感じている事がわかりました。

「雇用関連」：円高が悪影響と感じている割合が6割近くとなり、企業業績の悪化や生産拠点の海外移転等が、雇用情勢の悪化をもたらすとみられています。

(2) コメント分析

「良い影響について」：構成比が低く、家計・企業における輸入物価安、あるいは家計・雇用における海外旅行が安く行けるといった意見が主なものでした。

「悪い影響について」：家計・企業・雇用とも共通して、輸出採算（収益）の悪化、海外進出（空洞化）の悪影響のほか、マスコミ報道等に触発された問題意識の高まり（感覚的なもの）から回答頂きました。この中には、一般に海外進出意欲が高まっている状況下で、「円高は海外進出（投資）の追い風となる」との一部注目すべき指摘もありました。

(3) 景気モニターのコメント紹介

- ★輸入冷凍食品を安く仕入れできる為、良い影響を感じています。（小売店経営者）
- ★海外投資には追い風となっています。（電気機械器具製造業経営者）
- ★企業の海外移転による雇用環境の悪化で、深刻な雇用問題が起きると感じています。（人材派遣業社員）
- ★輸出関連企業城下町にとって、異常な円高は下請け企業等に大きく影響すると感じます。（商店街代表者）



地域経済研究グループ

〒471-8601

愛知県豊田市元城町1-48

電話 0565-36-1384

FAX 0565-34-2222

URL <http://www.toyoshin.co.jp>